

第 13 回 POLUS-ポラス-学生・建築デザインコンペティション



二次審査会 受賞者決定

最優秀賞『こもり知らずの扉』

応募総数は過去最多の822点

ポラスグループ
ポラス株式会社

ポラスグループ ポラス株式会社(本社:埼玉県越谷市、代表取締役:中内 晃次郎)は、7 月 8 日に『第 13 回 POLUS-ポラス-学生・建築デザインコンペティション』の二次審査会を公開開催し、厳正な審査の結果、最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点、入選 2 点を決定しました。審査にあたっては、当初優秀賞 1 点、入選 3 点の予定でしたが、候補の 2 作品が同等の評価となり、特例として優秀賞 2 作品、入選 2 作品としました。

本コンペティションは、「脱家族の家」をテーマに 2025 年 11 月 28 日～2026 年 5 月 7 日にかけて作品を募集しました。過去最多の 822 点の応募作品から一次審査を通過した 5 点について、学生のプレゼンテーションや審査委員との自由討議を経て、各受賞者を決定しました。

本コンペティションは、大学院や大学、高等専門学校などに通う学生を対象に、建築の道を志す学生の自由で新鮮な発想を表現・公表する機会を提供することで、将来活躍が期待される学生を応援しています。

最優秀賞／こもり知らずの扉

平出 さつき(京都美術工芸大学)

優秀賞／「個」のつどい

石澤 航(九州大学大学院)

優秀賞／壁で編む縁

八木 清花・岡 優志・吉井 洸貴(大阪工業大学大学院)

入選／倉庫の家

光安 天舞(東京理科大学大学院)・村上 祥太(東京藝術大学大学院)

入選／「家族を編む」境界を滲ませる子供のスケール

吉川 大空・脇坂 献徒(京都工芸繊維大学大学院)



審査委員(前列)と入賞した学生の皆さん



質疑応答の様子

■最優秀賞受賞者コメント

作品名／こもり知らずの扉

平出 さつき(京都美術工芸大学)

最優秀賞に選定いただきありがとうございます。今回の機会を励みとして、今後は誰かのサポートができるようなポジションに立って、身近な方々の手助けにつながる設計ができるように取り組んでいきたいと思います。



こもり知らずの扉 模型

■審査委員の講評 審査委員長 西沢 立衛氏（横浜国立大学大学院建築都市スクールY-GSA教授）

今年は大変多くの応募案が集まり、様々な案が競い合っ、審査は簡単ではなかった。その激戦の中で最優秀賞に選ばれたのは『こもり知らずの扉』で、方丈のユニットが連続し、繋がったり分かれたりする、群衆建築の提案であった。空間の変化と家族の大きさの変化が有機的・動的で、その形のなさは課題である「脱家族の家」に鋭く応えるものであった。的確なスケール感覚とディテールがあり、ひとつも諦めることなく全体をまとめあげた作者の努力の大きさを感した。

優秀賞の『壁で編む縁』は、壁が領域を作りまた領域を乗り越え、立体的な新領域を作り出すというもので、私としては最優秀賞に次いで推した。屋根も考えてくれたら、さらに飛躍したのではないだろうか。

優秀賞『「個」のつどい』は、異形平面の木造住宅がランダムに集合する案で、バラバラな個の表現に鋭さを感じた。他方でその集合には、新しい風景と感じられるものがなかった。

入選『倉庫の家』は、大倉庫にいろんな人が住むという案で、そのおおらかさとアイデアの大胆さに魅力があったが、大倉庫空間の中に普通の集合住宅を建ててしまったのは残念だった。入選『「家族を編む」境界を滲ませる子供のスケール』は、子供を家の中心に持ってくることに提案性があったが、建築は普通であった。

■審査委員

審査委員長	西沢 立衛	(横浜国立大学大学院 Y-GSA 教授)
審査委員	今井 公太郎	(東京大学生産技術研究所 教授)
	原田 真宏	(芝浦工業大学 教授)
	中川 エリカ	(中川エリカ建築設計事務所)
	野村 壮一郎	(ポラス社内審査委員)

本件に関するメディアからのお問い合わせ先
ポラスグループ ポラス株式会社 コミュニケーション部 広報課
TEL:048-989-9151 / FAX:048-989-3180
ニュースリリース: <https://www.polus.co.jp/news/>

■最優秀賞／こもり知らずの扉

01 現代における住戸と家業の関係

家業の継承は現代社会では大きな課題となっている。同時に、プライベートと公衆との境界を明確に定義し、区別している。このように、プライベート空間と公衆空間の境界を明確にし、区別している。家業の継承とは、単に家業を継承するだけでなく、家業の継承者としての責任を負うことも含まれる。プライベート空間においても、家業の継承者としての責任を負う必要がある。家業の継承者としての責任を負うためには、家業の継承者としての責任を負う必要がある。



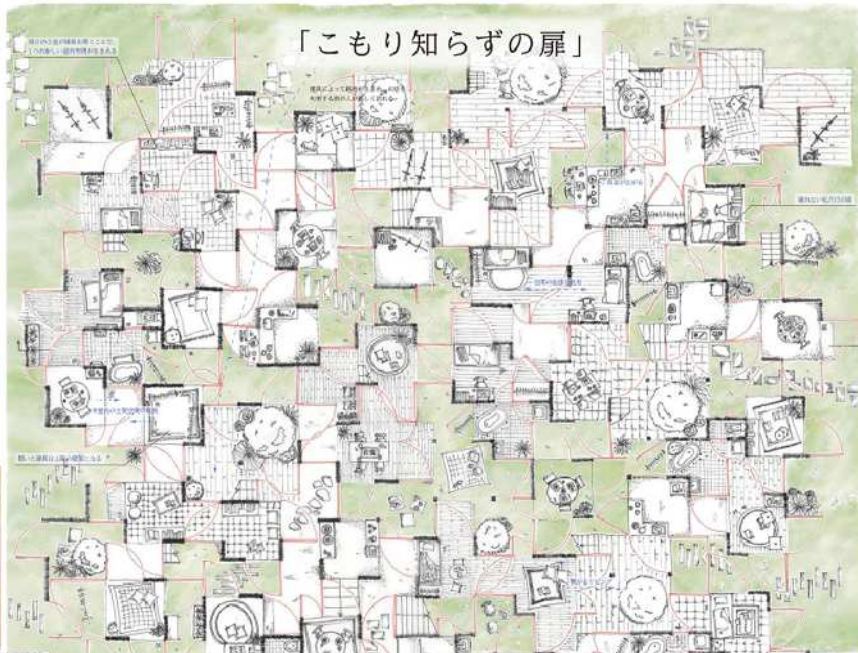
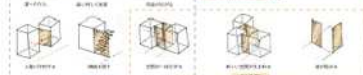
02 脱家業へのきっかけは道具である

家業の継承は、生活の場を共有することによって、家業の継承者としての責任を負う必要がある。家業の継承者としての責任を負うためには、家業の継承者としての責任を負う必要がある。

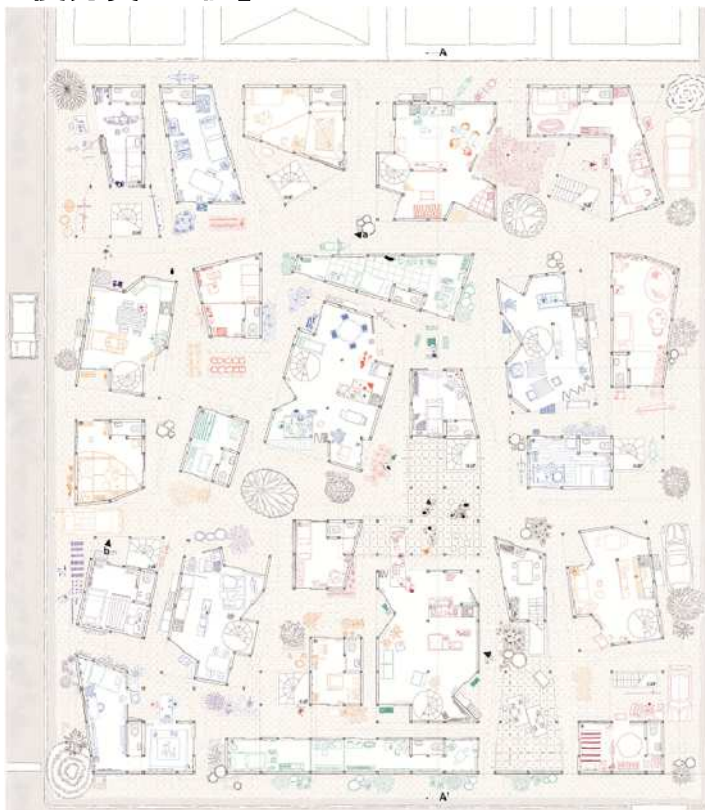


03 相互作用する拡張と転換

住戸間の相互作用は、拡張と転換によって実現される。拡張とは、住戸の範囲を広げることで、住戸間の相互作用を促進することである。転換とは、住戸の用途を変更することで、住戸間の相互作用を促進することである。



■優秀賞／「個」のつどい



人は死ぬ時、一人である。一生向き合い、代えのない存在が「個」である。家族、仲間、仕事、学校、趣味など様々なつながりによる一時的・恒久的な「個」の集まりのことをカゾと呼びたい。

「個」のつどいとは、個々の個性を尊重し、個性を表現するための空間である。個々の個性を尊重し、個性を表現するための空間である。個々の個性を尊重し、個性を表現するための空間である。個々の個性を尊重し、個性を表現するための空間である。

■入選／「家族を編む」境界を滲ませる子供のスケール



「家族を編む」境界を滲ませる子供のスケール

身体を起してはるかに高い所を繋がる子供からこそ、高い内にこそコミュニティの可能性を伺うたい。

近隣の小学校に通う子供のいる世帯のための生活住宅を計画する。学校で形成される子供のつく・コミュニティは、まだ強い境界が形成される以前の起こりという点において本来的に近代的である。このような子供の性質を低住宅の計画に応用し、それに対応する様に居住空間に設計すること、これによって壁で隔たれてきた家族の境界を溶かし込みのれやまのように居住戸を一つの住居にする。



親子



家族

親子 家族 親子 家族



親子



家族

親子を繋ぐ

家族を繋ぐ



土間に近接する多層、高層とローコストの居住空間を設計し、内部の空間構造が外部に溢れ出す。



親子の間に設けられたコートに置かれた本、子供が自由に読み書きできる。高層、高層の居住空間が溢れ出す。



近隣の小学校に通う子供のいる世帯のための生活住宅を計画する。学校で形成される子供のつく・コミュニティは、まだ強い境界が形成される以前の起こりという点において本来的に近代的である。このような子供の性質を低住宅の計画に応用し、それに対応する様に居住空間に設計すること、これによって壁で隔たれてきた家族の境界を溶かし込みのれやまのように居住戸を一つの住居にする。

